

〈論 文〉

ビジャ・エルサルバドル地方政府

——自主管理社会主義から参加的民主主義へ——

原田 金一郎

目 次

はじめに

1. 共同体サービス局長サムエル・ペドロサ
2. 青少年局長ラファエル・クンペン
3. 清掃特別プログラム局長ルイス・チュキハハス
4. 経済開発局長ディアナ・ナガキ
5. 都市開発局長ウーゴ・ソト
6. 人的開発局長ホセ・ロドリゲス
7. 助役ネストル・リオス

むすびに

はじめに

ビジャ・エルサルバドル市は、ペルーの首都リマから南へ20キロのところにある地方都市である。かつて1970年代自主管理社会主義のもとにあり、住民自治政府 (autogobierno) が存在していた。¹⁾ 1984年市に制定され、市役所 (municipalidad) が権力を握るようになった。そして、いつの頃からか市役所

1) 住民自治政府 (autogobierno) についてはペルーでも論争のテーマになっている。たとえば次文献を参照のこと。[Germana 1994]

ビジャ・エルサルバドル地方政府

はみずからを地方政府 (gobierno local) と呼ぶようになった。地方権力として住民と距離を置こうとしているのだろうか。だが、自主管理社会主義を経験した住民がはたしてそれを許すだろうか。それとも、中央政府の出先機関という意味だろうか。いずれにせよ、住民から距離を置こうとする姿勢が見られるような気がする。しかし、2002年秋市長選挙があり、与党が敗れ、独立派のハイメ・セアが市長となった。まだ確たる成果をあげてはいないようだが、いずれ審判は市民住民が下すであろう。

ここに紹介するのは、2002年夏ビジャ・エルサルバドル地方政府において全局長および助役と行ったインタビューである。²⁾



「市役所」正面ゲートと連帯広場

2) 市長のマルティン・ブマル氏とは多忙でインタビューできなかったが、すでに1999年に行っている。[原田 2000] 参照のこと。またパルーにおいても地方政府と民主主義の関係について議論がなされている。次文献参照。[de Chu 1998]

1. 共同体サービス局長サムエル・ペドロサ



[質問——公共サービス局の政策について]

——現在は「共同体サービス局」と改名している。職務は、市民登録、清掃、運輸、商業、市警察などだ。市の政策によってサービスの位置は変わる。

[質問——現在かかえている問題は何か?]

——公共清掃が問題だ。モトタクシー [小型の三輪タクシー] についても規制しなければならない。インフォーマル商業についても政策を実行中だ。最近インフォーマル市場を撤去した。

[質問——ゴミ問題について市民のキャンペーンを見たが]

——現在ゴミは20区ごとにトラックで集めるようになり、有料化している。

[質問——日本でもゴミ問題が深刻だが、ここではどうか?]

——ゴミ問題については、人々の意識が問題だ。そして感受性が大切だ。また、資源保護の観点も重要だ。分別、再利用などを考えるべきだ。

[質問——現在市の人口はいくらか?]

——市民登録は36万人。出生後30日以内に登録する。登録していない子供はコレヒヨ [小中高校] 入学時に問題になる。以前は登録していないと入学できなかったが、現在ではできるようになった。

[質問——市は公共サービスについてどんな政策をもっているか?]

——インフォーマル商業については、公式化と発展を目指している。しかし困難は多い。モトタクシーについては、70年代にはなかった。90年代ペルーでは例外的にイキトス（北部アマゾン地帯の都市）などで発生した。規制が必要になっている。98年から2002年にかけて法制化した。また2001年サービス規制のための条例を制定した。商業については、課税や営業許可などの規制を考えている。現在市の人口の60～75%が商業に従事しており、14～16%がサービス業に従事している。市内には工業団地もあるが、主要経済活動は商業だ。——また、モトタクシーについては市がコントロールしており、市の許可が必要となっている。

——火事・地震などの災害対策も共同体サービス局の職務だ。ビジャ・エルサルバドルは砂地なので、3階建て以上の建物を禁止する必要があると考えている。

[質問——11月の市長選挙の様子はどうか?]

——候補者は分裂しており、情勢は複雑だ。ソモス・ペルー [われらペルー、与党]、ウニダ・ナシオナル [国民同盟]、アプラ、ペルー・ポシブレ [可能なペルー、トレド大統領の率いる政党]、独立派などが乱立している。そして、人々は変化を望んでいる。

2. 青少年局長ラファエル・クンペン



[質問—あなたの局はどんな仕事をしているのか?]

—本局は3年半前に組成された。ビジャ・エルサルバドルの人口の65%は青少年なので、そのために作られた。文化教育、スポーツの指導などを行っている。さらには(1)対青少年政策の創造、(2)参加、(3)青少年の存在の強化を目的としている。そして、ビジャ・エルサルバドル市総合開発計画の一部として活動している。

—ひとつのテーマは教育である。つぎに、トレーニング、技術面もさることながら、ビジャ・エルサルバドルのアイデンティティの創造を目指している。つぎのテーマはスポーツである。夏休みを利用して、サッカー、バスケットボール、バレーボール、空手などの活動を行っている。

—青少年のリーダーシップや統治能力の養成を目指している。また未組織の青少年を組織化し、アイデンティティを創造し、能力を開発することを目指している。

—スポーツは青少年にとってきわめて重要だ。最近1万2千人収容の市民スタジアムを建設した。トレーニングに利用している。

—文化活動については、ダンス、折り紙、戯曲、音楽などの活動を行っている。いずれも成人にはむずかしい。昨年は子供たちによるオペラ「ネコの世界」を上演した。市内には劇場もあり、たくさんの文化活動グループが生まれている。

—本局はスポーツ・文化のプログラムを作成し、市長傘下の教育センターと相談しながら実行していく。

[質問—市長が重要な役割を果たしているということか?]

—そうだ。教育諸センターの長が市長にたいし責任を負うシステムになっている。

[質問—青少年の社会的責任についてはどうか?]

—ペルー全体において、この15年間はセンデロ・ルミノソのテロやアラン・ガルシアの暴政、フジモリの新自由主義などによって失われた年であった。このような社会情勢下では、ビジャ・エルサルバドルでもペルーでも人的開発やトレーニングやその他の活動は乏しくならざるをえなかった。しかし今は、青少年が自分で考え、大人は押し付けないときであると思う。

[質問——日本の青少年は無気力・無関心で、自分のことばかり考え、学生は勉強しないことが社会問題となっているが、ここではどうか?]

——ビジャ・エルサルバドルでは、教育センター、トレーニング、スポーツなどダイナミズムがあり、女性（ビジャ・エルサルバドル民衆女性同盟）も活発だ。それに第一、市長も30代で若い。

——昨年10月、日本のピースボートが来て、青少年たちと交流した。本局は国際交流も行っている。スペイン、イタリアから訪問団が来た。ビジャ・エルサルバドルからも、スペイン、フランス、ドイツ、イタリアへの訪問団を送った。また姉妹都市交流も行っている。市の財政は苦しいが国際交流を続けている。

[質問——現在一番深刻な問題は何か?]

——失業だ。市内にコレヒヨが15あるが、卒業しても職がない。市内の工業団地で青少年が多数働いているが、受け入れ能力に限界がある。

[質問——少年強盗団についてはどうか?]

——今は減少した。以前は暴力行為も含んでいた。原因は、親が放任し、朝から夜まで働いているためだ。また家庭内虐待の問題もある。それで家より街にいるようになる。それに麻薬の問題も多くはないがある。

——また、先生方が話したがらない「性」という禁じられたテーマもある。青少年にとっては避けておれない重要なテーマだ。

[質問——ビジャ・エルサルバドルの青少年の特徴は何か?]

——ここでは青少年はきわめて創造的だ。常に何かを求めている。そして参加の意欲が強い。多くの機関が経験を聞くために青少年を呼び寄せる。ところが、ペルー全体では青少年問題はより困難だ。

——トレド政府は全国青少年審議会(CONAJU)を今年7月28日に結成したが、青少年が参加しなければ機能しない。そして興味がなければ参加しない。ここ中心部リマと、たとえば地方のアヤクチョ県では青少年の状況が異なり、地方は悪い。地方では、異なる現実・思想の問題を抱えている。ここでは、たとえばチェスの雑誌を子供たちが自主的に出版したりする。本局が指導した訳ではない。ここでは青少年のイニシアティブが存在しているのだ。

3. 清掃特別プログラム局長ルイス・チュキハハス



——当プログラムは局の資格を持ち2001年開始された。以前は公共サービス局の1部門だった。諸問題を解決するため自立性の必要が認められた。そしてPELPEMA(公共清掃・生態・環境プログラム)を決定した。公共清掃には政治的経済的諸問題という困難があった。そしてビジャ・エルサルバドル以外の地域の問題も考慮した。市長も住民の意思を取り上げた。

——リマ市はコスト高を解決できない。ビジャ・エルサルバドルでは、コノ地域の4市長が集まり、予算・技術について討論した。たとえば、リマのゴミは処理に1トンあたり12.99ソルかかる。ビジャ・エルサルバドルのゴミは1日あたり180トンで、処理費用はトンあたり11ソルかかる。これをワイコロロまで運ぶと8ソルですむ。コノ地域では、サンファンデミラフローレス市が1日200トン、ビジャマリアデツリウンフォ市が180トンゴミを排出する。これらとの調整を考えねばならない。輸送のコストを考えてもコノ地域のルリンに持って行くよりワイコロロの方が安い。

——問題は最終処理費用と輸送費用だ。収集は問題ない。収集用のトラックの90%は贈与によるもので、オランダ、ドイツ、イタリアからのものだ。

——公共区域を10に区分しているが60%しか機能していない。また、

ビジャ・エルサルパドル地方政府

6万5千世帯のうち18—20%しか料金を支払っていない。この市では運動や闘争が続き、支払う意思が育たなかった。現在、意識化に努めている。

——各家庭が11ソル支払う予算を組んでおり、月4.5ソル支払うようにしている。2000年各家庭を回って集金しはじめた。一種の訓練と考えている。2000年50万ソル集め、2001年は107万5000ソル集めた。2002年は180万ソル集める予定だが、予算は380万ソルだ。もう2年もすれば予算を満たせるようになるかもしれない。

[質問——日本で今とりあげられているのはリサイクルの問題だがこれについてはどうか?]

——目下、三輪車[自転車にリヤカーをつけた車]が分別し、インフォーマルに売っている。1ヵ月前フォーマルな分別をはじめた。26の三輪車で住民の教育のためにやっている。住民に販売の利益を分配している。ただし金ではない[一種のエコマネーか?]。現在300パイロット家庭をもうけているが少しずつ広げたいと考えている。

[質問——それに関連していえば、日本では昨年からは電気製品を捨てるのに有料となった]

——ここではちがう。人々は捨てたいものを捨てている。リサイクルの意識はまだまだ低い。

4. 経済開発局長ディアナ・ナガキ



[質問——経済開発局の機能について]

——4年前に設立された。(1) 地域内の経済開発政策の推進など、4つの目的がある。(2) 秩序化、(3) 労働市場への若者の編入、(4) 中小企業政策、とりわけ工業団地 (Parque Industrial) の向上がそれである。

——97年工業団地法が制定された。そして工業団地特別プログラムが生まれ、工業団地の推進がはかられた。

——商品化については97年最初の見本市が開かれた。そして、商品化とリマの消費者への商品の仲介がはかられた。これにより需要が増大した。

——技術・計画化にたいする別の事務所があり、雇用および援助を取り扱っている。

——現在開発局は4つの政策をとっている。(1) 青年層の指導、(2) 青年の研修、(3) 雇用の増大、(4) 労働の仲介、がそれである。最後のものについては、昨年1800人の若者の雇用を実現した。

——通商については、ボリビア、米国、カナダ、ドイツなどに行っている。また国内でも、アヤクチョで見本市を開いた。

——1987年政府により工業団地が設立された。そして88年から89年にかけてその地方自治化政策がとられた。現在も自治が原則である。それと企業主の利益参加が原則とされている。

——現在抱えている大きな問題は水である。

——1980年農民経済法が制定され、農民共同体についてもカニエテにいたるまで規定された。そして、最低価格が定められた。

——また国家マイクロ企業政策がとられ、女性のためのマイクロ企業法が定められた。またすべての人への融資の道が開かれた。ただ、まだ保険の問題がのこっている。

——また近年知的所有権保護局も設けられた。

——消費者の保護のためには、OSCARという事務所がビジャ・エルサルバドル市内に設けられた。

——質的向上のためのキャンペーンも行われており、工業団地のイメージ向上が図られている。

——工業団地は地方に焦点をあてていない。また、どの局もこの点に手をつけていない。

——市内の3つの海岸が放置されている。開発資金がないからだ。堤防建設についても問題が多い。検討はされたけれども。

[質問——大学の設置についてはどうなっているのか?]

——土地は用意しているが予算がないため実現していない。

——市内の農牧地帯の開発も遅れている。組合はたくさんある。牧草栽培を行っており、小麦は少ない。カモ、ニワトリなどの飼育を行っている。やはり水が問題だ。住宅・工場とのあいだの問題もある。

——工業団地の構造について。8つの企業者組合が運営にあたっている。それから、4つの水などのない非設備組合があり、APEMIVES（ビジャ・エルサルバドル中小企業組合）に組織されている。すべての研修をのぞいて、他は組合を通じて行っている。99年以降もっとも発展したのは家具業である。木材業からの全国チェーンをつうじて国内市場から買い付けを行っている。

——99年生産省は、木材・家具技術改革センターを省内に設置した。高級機械を利用し、高品質化をめざしている。

——市場は、ビジャ・エルサルバドル外部では高価である。輸出は少量で支払いが問題だ。

——研修にはつねに苦労している。研修と技術化が重要であるのに、企業は自己満足している。

[質問——わたしの見るところでは、工業団地の機能は、(1) 地域への工業製品の提供、(2) 地域の雇用創出、(3) 外部所得の獲得にあると思うがどうか?]

——だいたいその通りである。

[質問——また工業団地は他国も見習ってよいマイクロ工業化という内発的發展の例だと思うがどうか?]

——わたしはリアリストなのでそのままは認められない。

5. 都市開発局長ウーゴ・ソト



[質問——都市開発局の仕事は何か?]

——まず第1に都市開発の計画化、第2に開発プロジェクトである。

——目下の仕事は、(1)参加型予算の仕事とテーマ、(2)公有地の緑地化プロジェクト、(3)はじまったばかりだが、私的投資の推進である。

——市立スタジアムの建設も開発局の仕事だった。1万2500人収容できるが、130万ドル投資した。

——青年のテーマ、スポーツ(水泳、空手、柔道など)も重要である。サッカーだけでなく、他のスポーツも振興したい。

——緑地については、空間回復の計画として参加型予算の重要な仕事である。住民が参加することが重要だ。それも、物理的な仕事ばかりでなく、アイデンティティの問題だ。緑地化は青少年に影響を与える。

——「参加的」が大切なのであって、スポーツが重要なのではない。

——民主主義の強化が重要である。事業が他に物も生み出すという意識化が重要である。

[質問——その他の仕事は?]

——都市管理だ。とりわけ商業住宅の規制が重要だ。ビジャの人は自分で家を

建てる。1984年市制がしかれたとき、建築許可制をしかなかった。最小の許可制が必要だ。家屋の質の向上が重要だ。換気その他が悪い。

——市内は4つの区域に分けられている。(1)工業団地、(2)農牧地、(3)海岸、(4)市街区だ。農牧地では住宅を作れない。工業団地は調整中だが、住宅は重要ではない。

——現在、都市開発局は以下の監督を行っている。(1)緑地化、(2)商業化、参加型予算により社会組織を強化している。(3)参加の活性化。現在は、参加が建設に向けられている。来年は人間に集中したい。

——予算は手段であって、参加が重要である。

[質問——行動によって人々の意識が変わることこそが重要なのではないか?]

——その通りで、権利の意識化こそが重要だ。参加は容易なことではない。それは建設である。そこには、不信、個人主義といったさまざまな困難がある。

——参加はゆっくりした仕事で、各年ごとによくなることを期待している。

——もう一度いうが、参加は手段である。信念にせねばならない。地方政府は助力するだけで、市民社会が実行せねばならない。

[質問——参加により「下からの民主主義」は変わったか?]

——地方共同体は強くなりつつある。個人主義が残っているが、市民社会は強い。

[質問——市民社会が国家と市場をコントロールすることにより、既成の社会主義や資本主義を乗り越えることができると思うがどうか?]

——個人が最初にあるべきだ。国家や市場は個人に奉仕すべきであろう。その場合、市民社会の位置付けが大切であろう。

6. 人的開発局長ホセ・ロドリゲス

[質問——人的開発局の機能は何か?]

——健康あるいは衛生である。たとえば、商人が商品を扱うさいの衛生とか、生産物の質、研修、生産物の衛生について取り扱う。水の質の管理も扱っている。



——また、地域の組織にたいして社会的振興も行っている。たとえば、共同体の青年会議などがそうである。

——また必要とする者にたいして、たとえば病院・機関にたいして社会的支援も行っている。また老人や虐待にたいしてもそうである。現在は子供・女性にたいする暴力を禁止する罰則が法定されている。

——バソ・デ・レチェ [粉乳の配給制度] は1日に10万人に配布されているが、子どもと老人のネットワークを作ることが重要だ。

——参加型予算については、4つの機関のもとで8つの区域で実行されている。

——価値の回復をつうじての個人の変革が必要だ。そのために今年からリーダー養成学校をはじめた。メンバーは市場の代表、衛生促進員、青少年である。種概念から成人と青少年を50%ずつ、男女も50%ずつにした。参加的民主主義が重要だ。差異があっても耐えることだ。30数人がどんな活動をするか、交代で生み出すのである。指示するリーダーではなく、統治するリーダーが望ましい。指示するリーダーは権利しか知らない。統治するリーダーは権利と義務を知っている。市や社会の変革のためにはリーダーだけではだめだ。多数の参加が必要だ。代表制民主主義は不十分だ。3・4年ごとに投票するだけで終わりだ。参加的民主主義でなければならない。民主主義のラディカル化が必要なのだ。こんな学校をわれわれは今年6月にはじめた。

——バツ・デ・レチュエや民衆食堂〔炊き出し〕は、それ自身を目的としているのではない。それ以上のことを考えている。たとえば、貧困や失業について話し合うことが重要なのだ。収支は問題ではない。どれだけ計画を実現できているかが重要なのだ。いかにしてそれ以上を見るかが問題だ。

[質問——現在局が抱えている問題は何か?]

——価値の回復が問題だ。現在リマもビジャ・エルサルバドルもこの点に関して危機にある。たとえば、家族も危機にあり、50%がうまくいってない。麻薬取引、泥棒などの問題もあり、警備会社が必要になっている。精神性の変革が必要だ。たとえば、フェミニズム(女性優位主義)、パターンリズム(家父長主義)、ペシミズム、宿命論、失望などがそれだ。リンゴの一部を切り取れば食べられる。全部を捨てることはない。

——教育が大切だ。否定ばかり教えるのはよくない。決定をいかにして行うかが重要だ。子供たちは大人に依存している。決定や参加を教えなければどうなるか。

——父親学校が必要だ。

——コミュニケーションは言葉による。子どもが理解できなければ暴力だ。

——人的開発局は個人にたいして活動する。今いるところから向こうを見るプロジェクトが必要だ。そして、みんなが進歩することだ。みんなが100を主張すればだめだ。20ずつみんなで分け合うことだ。

——リサイクルの問題についても同じことがいえる。2つの道がある。(1) プラグマチズムつまり自分さえよければよい、(2) 集団の利益を考える。経済の脱出口は集団のもので、個人の道はない。

[質問——局長になったのはいつか?]

——1年半前だ。

[質問——局長として何が一番興味深いか?]

——リーダー養成学校だ。大人は変わらない、というのはまちがいだ。2ヵ月で変わる。最初は距離を置いて挨拶もしない。ところが最後には抱き合う。

——感情的知性というものがある。個人の諸関係の改善が肝要だ。そのためにダンス、音楽、絵画が必要となる。フィエスタ(祭り)をみんなで行うことが

重要だ。

——リサイクルはむずかしい。汗を流せば変わるが、汗なしでは変わらない。

——労働者にしても2種類ある。(1)より総合的な推進者。賃金以上に働く。

(2)市の職員にはいないが、賃金以上に働かない者。

——好むところに職を持ち、つねに成長することが肝要だと思う。

7. 助役ネストル・リオス



[質問——現在ビジャ・エルサルバドルの抱えている問題は何か?]

——コミュンとしての統一性を復活させることである。その他にも、舗装道路不足、泥棒などがある。統一性は以前は強かった。都市サービスはよくなっている。

[質問——青年層の抱える問題は何か?]

——ペルー経済そのものが危機にある。青年は社会の欠くべからざる一部分だ。したがって経済危機の申し子でもある。野蛮でエゴイスチックな新自由主義がすべてをダメにした。「真の社会主義」が必要だ。ビジャ・エルサルバドルの人口の67%は25歳以下だ。しかし機会がない。安価な労働力として搾取されている。学校を出ても機会がない。工業団地は機会を作ろうとしている。また、

コノスレデリマ工科大学を作る法を作成した。根源は社会にある。生活を楽しめるような工夫を考えている。

[質問——人的開発について]

——リーダー養成学校を最近はじめた。参加とリーダー養成、参加型予算などについて学ぶ。経験交流を行い、地方開発、連帯を学ぶ。また開発の倫理、社会管理についても学ぶ。開発計画の一環として行っている。市のリーダーを育てるためだが、そこには3つの軸がある。(1) 学習、(2) 経験交流、(3) 理論——経済学、開発、民主主義、連帯、哲学、倫理など。

[質問——清掃について]

——問題は資源不足である。1日180トンのゴミが出る。公共清掃プログラムが担当しているが、市民の30%は料金を払うが70%は払わない。収集はコストが安い。輸送はトンあたり11ソルかかる。また、最終処理に金がかかる。

[質問——工業団地について]

——問題は強化にある。まず、(1)不況がある。(2)セクター別の競争がある。服装・製靴などに影響するが、家具は上流の消費者が買う。他の地との競争もある。(3)女性・青年の参加。

——輸出については多くはない。国内市場や首都圏が主たる市場だ。競争下における質、エコロジーなどの需要を考える必要がある。

[質問——参加型予算について]

——2000年以降実施している。市民が自ら予算を討議し作成するのだ。2002年8月第2回の国際会議を開いた。³⁾目的はたがいの経験を共有することだ。ラテンアメリカ、ヨーロッパの都市間のネット作りをして参加型予算を発展させることだ。いかにして制度化するかを詳細に話した。国連、メキシコ、ボリビア、ブラジル（ポルトアレグレ市）などから代表者が来た。

——参加型予算は政治プロジェクトと結びついている。ブラジルのポルトアレグレ市は社会党政権だ。民主主義の建設、社会民主主義もしくは社会主義に結びついている。保守政権が支配している都市でも参加型予算を行うことがある。

3) 2000年の第1回会議記録については、[Municipalidad de Villa El Salvador et als. 2001]参照。また参加型予算についての日本人研究については[山崎 2002]参照。

よりよき市民を作り出すことが目的だ。

[質問——なぜ米国からこないのか?]

——共同体参加はあるのに、なぜかこない。

[質問——市長選挙の展望は?]

——5人の候補者がいて混沌としている。見通しはつかない。

[実際は独立派のハイメ・セアが当選した。]

[質問——ビジャ・エルサルバドル民衆女性同盟(FEPOMVES)はまだ強いのか?]

——FEPOMVESは、バソ・デ・レチェや民衆食堂などの活動を続けているが、権限がなく弱い。生産に結びついていないことが長期的困難をもたらしている。

[質問——ビジャ・エルサルバドル自主管理都市共同体(CUAVES)について]

——もう過去のものだ。未来のものとして柱を作るべきだ。昨年4組織が合同し再組織したがまだ脆弱だ。

[質問——市会議員になぜ立候補したのか?]

——変化がほしい。官僚生活にはもうエネルギーが尽きた。それより勉強がしたい。哲学や社会学を学ぶために大学に戻りたいと考えている。

[2002年11月選挙においてネストル氏は惜しくも落選した。現在は人的開発局に所属している。]

むすびに

自主管理社会主義の時代(1971 - 1984)においては、ビジャ・エルサルバドルの社会システムを動かしていたのは連帯原理であった。しかし、1984年市に制定されてからはそれにとって代わる参加的民主主義が求められているようである。住民=市民側も以前自主管理によって培われた主体性を維持しているし、地方政府側も参加を期待している。たとえば公共清掃において、まだまだ市民の意識が低く、公共料金を支払わないといったことも生じてはいる。住民から市民への意識変革がまだ遅れているのである。そうかと思えば、青少年においては積極的な参加が見られる。この場合も、青少年局が実施するスポー

ツそのものが重要なのではなく参加が重視される。

都市開発局においては、公有地の緑化プロジェクトを実施しているが、その場合も参加型予算の一環として位置づけられている。つまり、市民が自身で計画し予算化し実行することが重要なのである。ウーゴ・ソト都市開発局長はいう。「予算は手段であって、参加が重要である」と。そして、「地方政府は助力するだけで、市民社会が実行せねばならない」という。かつての都市共同体の残滓もあってか、ビジャ・エルサルバドルの市民社会は強い。

ホセ・ロドリゲス人的開発局長は、形式的で儀式的な代表制民主主義は不十分で、「民主主義のラディカル化」が必要だという。そのために、リーダー養成学校を作ったという。そこでは、個人の精神性の変革が求められているが、それだけではだめで人々の参加が必要だとのことである。

このようなビジャ・エルサルバドル地方政府の取り組んでいる課題を、ネストル・リオス助役は、「コミュニケーションとしての統一性の復活」と結論づけた。つまり、以前の自主管理都市共同体の持っていた住民の連帯原理に基づく統一性を、地方政府がイニシアティブをとりながらも市民が主体的参加する、いわば参加原理に基づくような都市コミュニケーションとして再生することをビジャ・エルサルバドル地方政府は目指しているのである。

現在の日本の地方自治体と比べて格段に違うのはこの参加原理であろう。日本も市民社会は強くなりつつある。市民運動も強くなりつつある。しかし、イラクへの自衛隊派兵は阻止できないようだ。まだまだ日本の社会システムは市民主体にはなっていない。われわれはビジャ・エルサルバドルからこの点を学ばねばならないのではあるまいか。

2003年12月31日

参考文献目録 (BIBLIOGRAFIA)

1 Fuentes Primarias (Entrevistas)

Con Samuel Pedroza Lucana	7/8/02
Con Rafael Cumpen Bonifaz	8/8/02
Con Luis G.Chuquijajas B.	8/8/02
Con Diana Nagaki Oshiro	9/8/02
Con Hugo Soto	13/8/02
Con Jose Rodriguez Aguirre	23/8/02
Con Nestor Rios Morales	28/8/02

2 Fuentes Secundarias

de Chu, Ines & Piazza, Maria del Carmen (eds.)

1998 *Sociedad y gobierno local:espacios de concertación y democracia*,Lima : DESCO.

Germana,Cesar

1994“Algunas hipótesis sobre el autogobierno de las ‘comunidades urbanas’ en el Perú,“*Revista de Sociología*,vol.18núm 9.

3 邦語文献目録

原田金一郎「自主管理都市共同体ビジャ・エルサルバドル——代替的社会主义論のためのフィールド・ノート(予備的省察)」大阪経済法科大学『経済学論集』23巻3号、2000年3月。

同上「『貧しさ』とは何か——ビジャ・エルサルバドルの体験から」『神戸新聞』2000年12月8日。

同上「ビジャ・エルサルバドルにおける社会主義と工業団地——自主管理社会主義から住民コミュニティへ」『経済学論集』24巻3号、2001年3月

同上「ビジャ・エルサルバドル精神衛生共同体センター——周辺社会における貧困と精神衛生」『経済学論集』25巻3号、2002年3月

4 追補文献

Municipalidad de Villa El Salvador et als.

2001 *Relatorias I Encuentro Internacional Presupuesto Participativo*, Quito:Programa de Gestión Urbana.

山崎圭一「集権国家ペルーにおける地方分権化」日本財政学会第59回全国大会共通論題報告用フル・ペーパー、2002。